

# 日本下水道新聞



阪神淡路大震災をきっかけに、昨年多発した浸水被害や中越地震などで活躍するボランティアが報道され、日本にもボランティア活動が芽生えた感があるが、真に我々の生活に根付いたとは、言えないのではないかと思う。実際に行

動を起こすに至る人は一部の人たちであり、義捐金や支援物資を送る程度がほとんどの人たちの限界かもしれない。

ボランティア活動は、個人が団体の差はあれど、社会貢献を目指す活動であることは同じである。21世紀水倶楽部の会員は、現在60名であるが、会員それぞれが入会動機はいろいろのようである。具体的な問題意識をもって積

極的に行動するグループ、興味あるテーマに合流するグループ、情報収集を目的とするグループ、交流拡大を図りたいグループ、資金提供を目的とするグループなどがある。

21世紀水倶楽部は、7つの主要なテーマを設定し、これを中心

に行動する会員が少ない原因を推察するに、本職が忙しい人も多いが、見知らぬ集団の中で自己を主張することが不得意な日本人特有の美徳が災いしているのかもしれない。

## 水倶楽部の「第一歩」

— 中川 幸男 —

ない。

NPO活動への参加をどのように考えるべきか、確たる答え

活動している。各テーマごとに「まごめ役」を決めているが、参加員の関与の程度には温度差がある。まごめ役と会員の協議のうえ、具体的な行動を決めているが、「行動する会員」が少ないため、まごめ役に業務が集中することになり、業務分担しても足並みが揃

た。各テーマごとに「まごめ役」を決めているが、参加員の関与の程度には温度差がある。まごめ役と会員の協議のうえ、具体的な行動を決めているが、「行動する会員」が少ないため、まごめ役に業務が集中することになり、業務分担しても足並みが揃

(NPO法人「21世紀水倶楽部」事務局長、日之出水道機器(株)顧問)